

1 本年度の重点目標

「学ぶ力」(認知能力と非認知能力)の確実な育成～何ができるようになるか～

1. 豊かな心とたくましい身体を育てる潤いある教育活動の推進
2. 確かな学力・自己教育力と自信を持つ子の育成
3. 保護者・地域との連携の推進

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	「めざす子ども像」の実現状況はどうだったか。 ①思いやりを持ち、助け合う子 ②すすんで学び、よく考える子 ③ねばり強くやり抜く子 ④心も体もたくましい子	B 3.24	学校経営方針や経営プログラムの提示により、各学年・分掌が具体的な目標を決定し常に振り返りながら取り組んできた。その成果もあり、めざす子ども像については AB 評価が多くなっている。ただし、進んで心や身体を鍛える子どもについては C 評価もあり、他の項目に比べ低い評価である。今後のスキー学習、冬遊び、どさんこ元気アップチャレンジ、委員会が企画する楽しく遊ぶ活動を通してめざす子ども像実現につなげていきたい。	A	A
	基礎基本の定着に向けた授業を構築することができたか。	A 3.37	下位の子を救うということを第一に考え 3 年間ほど少人数指導を行ってきた。しかし、結果として良い方向には向いていない。その前の上位の児童を取り出す方法の方が、学力の結果としては、良い結果が出ていたことを踏まえると、取り出しも少人数の指導も違う方向で向かっていく必要がある。	A	A
	思考力・判断力・表現力の育成に向けて、授業改善に取り組むことができたか。	B 3.17	これらの力をつけるために、必ず取り入れることを決めて、全体で授業づくりに向かっていくことが大切である。	A	A
	学びに向かう心構え、姿勢、意識を育てることをめざして取り組むことができたか。	A 3.57	課題に向かっていくための見通しをもたせ、学びに向かう姿勢を育てることを全校で意識して取り組んでこられた成果が出ている。今後も良いものは継続し学びに向かう姿勢を育てていきたいと考える。	A	A

経営方針の重点	自ら学ぼうとする意欲を育てることをめざして取り組むことができたか。	B 3.23	与えられた課題に向かおうという姿勢はついてきたが、「自ら学ぼう」という意欲が十分ではないと考える。問題や課題を工夫するなどして、意欲を持たせ、持続させるための工夫を今後もしていく必要がある。	A	A
	課題に対して粘り強く最後まであきらめずに取り組む指導を行うことができたか。	A 3.52	授業の工夫、少人数やTT、Jチームの先生の支援などいろいろな工夫を行うことで苦手な子もサポートを受けながら課題に最後まで取り組む姿勢がついてきた。今後も継続する。	A	A
	新たな問題に挑戦する心、努力を重ねようとする意志を育むことをめざして取り組むことができたか。	B 3.22	概ねよいが、「やってみたい!」という子どもの意欲を高める授業の工夫やできたという達成感を味わわせることを日々繰り返すことで子ども達の意欲を一層高めていく必要がある。	A	A
教育課程・学習指導	授業では、「課題」を示し、何ができるようになるかを明確にして進めることができたか。	A 3.57	とてもできていたと思う。さらに課題を自分たちで見つけられるように今後も継続する。	A	A
	授業では、自己の学びを振り返り、自覚する機会をもたせることができたか。	B 3.16	時間が足りないという言葉がたくさん聞こえてきた。振り返りは全員ができることなので、必ずやる決意をして実施する必要がある。	A	A
	少人数指導や取り出し指導、朝学習など個に応じた指導や補充的な学習を適切に進めることができたか。	A 3.35	朝学習については、1問だけにしてもっと活用を図る問題に精選していく。しかし、その分、担任が類似の問題に取り組ませたり、宿題に出したりと、何度も繰り返しやるようにする。	A	A
	ICT教育推進モデル校としての実践の積み重ねやプログラミング教育の実施に向けての準備を適切に行うことができたか。	B 2.91	プログラミングについては、研修で提案したように計画的に実施していく。ICT教育推進モデル校として今後も目的意識を明確にしながら活用する。	A	A
教育課程・学習指導	内容項目の重点化（「努力と強い意志」「友情・信頼」「集団生活の充実」「生命の尊さ」）を意識し、考え、議論する道徳の授業の構築をめざして取り組むことができたか。	B 3.17	今後も道徳研修などを通して重点項目の確認やノート交流などを積極的に行う。	A	A

生徒指導	共感的な理解に基づき、いじめを許さない学級・学校づくりを進めることができたか。	A 3.50	次年度も児童観察やいじめアンケートで本校の実態を捉え、それを踏まえて日々の指導やいじめ撲滅集会を通して、全教職員でいじめの起こらない学校づくりを推進する。	A	A
特別支援	教育的支援を必要とする児童の把握と手立てを適切に行うことができたか。	A 3.47	取り出しが全てではないということも考えながら、しっかりと手順を踏んで、取り出し指導にあたっていきたい。また、児童の実態や課題を把握し、それに合った支援の場を提供していきたい。	A	A
	なかま学級と通常学級の交流や互いに尊重し合う人間関係の構築を適切に行うことができたか。	A 3.39	担任同士の交流が深いのが、本校の素晴らしいところである。それをもとに児童の交流を今後とも活発に行う。	A	A
健康・安全指導	保健指導、清掃指導、食育、体力づくりを適切に行うことができたか。	B 3.25	家庭科や食に関する学習では今後も栄養教諭が TT として積極的に授業に参加する。 朝自習時間などを活用した短時間で取組める保健指導を行っていく。 全員遊びなど学級での呼びかけも積極的に行い、体力向上に向けて取り組む。	A	A
	自他の生命の尊重や安全に行動する資質や能力の育成に向けて、適切に進めることができたか。	B 3.25	避難訓練やシェイクアウト訓練等、計画的に位置づけ、日常的な安全への配慮や自分の身を守る実践的な態度の育成に向けて今後も継続して取り組む。	A	A
働き方・環境整備	カードリーダーによる勤務時間の把握や定時退勤日設定、職員会議の進め方、業務の見直し等、働き方改革に向けた取組が適切に行われていたか。	B 2.95	抜本的な解決に向けて、今後、学校長の素案をもとに全体で協議し、具現化を進めていきたいと考えている。	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

評価項目は学校と取り巻く今日的な課題を取り上げており、適切であると考えている。

自己評価については、目標を高く設定し、やや厳しく評価しているように感じるが、全ての教職員が共通理解を図り取り組んでいることを強く感じた。

年度末評価会議で、改善の方策について協議している。この改善策を踏まえて、新年度も充実した教育活動を展開してほしい。また、より一層、保護者や地域との連携を密にし、共通理解を図りながら、子どもたちの指導にあたるよう期待している。さらに次年度は働き方改革を一層進め、目標を達成し、子どもと向き合う時間の確保に努めてほしい。

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない